

# ミュージアムでフランス語を学ぶことを目的とした 教材の分析：

カルナヴァレ博物館を事例として

今 中 舞衣子<sup>†</sup>

Pedagogical Materials in Museums for French Language Learning:  
an Analitical Case Study of the Carnavalet Museum

IMANAKA Maiko

## Abstract

This study focuses on language learning activities in museums and analyzes French pedagogical materials in the Carnavalet Museum, namely, (i) resources used to facilitate learning, (ii) the linguistic features of instruction to learners, and (iii) the socio-cultural knowledge embedded in learning activities. Results show, (i) maps, photographs, pictograms and illustrations are used to facilitate visual comprehension; (ii) the use of choice-type questions that can be answered by novice learners and second-person questions that encourage the learners' self-expression; and (iii) knowledge of Paris' geography, transport system, exhibits and social rules of the museum are found embedded in the process of engaging in French language learning activities.

キーワード：ミュージアムにおける言語学習，フランス語教育

Keywords: language learning in museums, french-language education

---

<sup>†</sup> 大阪産業大学 国際学部 国際学科 准教授

草 稿 提 出 日 6 月 29 日

最終原稿提出日 8 月 8 日

## 1. 本研究の背景と目的

近年、ミュージアムの役割のひとつとしての教育普及活動はますます活発化、多様化している。美術館や博物館における教育普及活動は、従来は展示の理解を目的とし、学芸員によるギャラリートークや専門家による講座の形式をとるものを指していた<sup>1)</sup>が、近年では地域における生涯学習として、あるいは学校教育のプログラムに組み込まれた活動としての役割をも担うようになってきた。

美術館での、あるいは美術作品を扱った教育活動として従来から着目されているものに、対話型鑑賞がある。対話型鑑賞は、1980年代にニューヨーク近代美術館(MOMA)で教育プログラムを担当したフィリップ・ヤノウィンらが提唱したVTS (Visual Thinking Strategies)<sup>2)</sup>が注目されたことにより、日本でもアメリア・アレナスが牽引役となって1990年代頃から紹介されるようになった<sup>3)</sup>。対話型鑑賞が学校教育の分野でも注目されている理由は、効果として期待できる言語能力、コミュニケーション能力、分析力、批判的思考力の向上といった側面が21世紀型スキル<sup>4)</sup>に代表されるような新しい学習観・教育観に合致しているからだといえる。

また、ミュージアムにおける教育活動は、習得したい言語を用いて他の教科やテーマについて学ぶCLIL(内容言語統合型学習)の実践事例としても取り上げられている<sup>5)</sup>。さらに近年では、文部科学省が提唱するSTEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学に創造性教育を組み合わせた分野横断的な学びのための教育理念)の一環としても、学校が博物館などと連携・協力して教育を実施することが一例として挙げられている<sup>6)</sup>。

以上のような背景から、本研究は、特に筆者が専門とするフランス語教育の分野でのミュージアムにおける言語学習活動の事例を収集・分析することを目的としている。本論

1) 並木美砂子(2008)「博物館の利用者主体の教育論構築にむけて：異文化理解を促す学習論の紹介と提案」『国立歴史民俗博物館研究報告』140, pp.169-183.

2) フィリップ・ヤノウィン(2015)『どこからそう思う? 学力をのばす美術鑑賞：ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー』京都造形芸術大学アートコミュニケーション研究センター・訳、淡交社

3) アメリア・アレナス(2001)『みる・かんがえる・はなす：鑑賞教育へのヒント』木下哲夫・訳、淡交社

4) P. グリフィン, B. マクゴー, E. ケア・編(2014)『21世紀型スキル：学びと評価の新たなカタチ』三宅なほみ・監訳、北大路書房

5) Fazzi, Fabiana & Lasagabaster, David (2020) "Learning beyond the classroom: students' attitudes towards the integration of CLIL and museum-based pedagogies", *Innovation in Language Learning and Teaching* 15 (2), pp.1-13.

6) 文部科学省「STEAM教育等の各教科等横断的な学習の推進について」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/mext\\_01592.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/mext_01592.html) (最終閲覧日：2023年6月25日)

文では特に、パリのマレ地区にあるカルナヴァレ博物館で制作・オンライン公開されているフランス語教材を対象とした分析について報告する。分析の結果から、教材がどのような特長を持っているかを明らかにし、日本の高等教育機関におけるフランス語教育への応用可能性を考察する。

## 2. 本研究の対象と方法

本研究の対象となるのは、パリのマレ地区にあるパリ市の歴史についてのミュージアム、カルナヴァレ博物館（Musée Carnavalet - Histoire de Paris）である。この博物館は、パリ市が市の文化政策に沿った形でミュージアムを運営していくために2013年に組織化した「Paris Musées」という14のミュージアムからなる組織に含まれている。

4年間の改装期間を経て2021年に再オープンした際、「accessibilité à tous<sup>7)</sup>」（誰もがアクセスできること）が重視され展示方法が大幅に見直された。例えば、車椅子での見学に合わせた改装、子どもの視線の高さに合わせた展示、英語／スペイン語／やさしいフランス語によるパネル、点字や音声による解説（写真1）、動画／タッチ画面／触れる展示物／ゲームを使ったインタラクティブな展示（写真2）などが行われている。こうした取り組みに加え、本研究の分析対象となるフランス語を学ぶための教材“J'apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris”<sup>8)</sup>も新版が

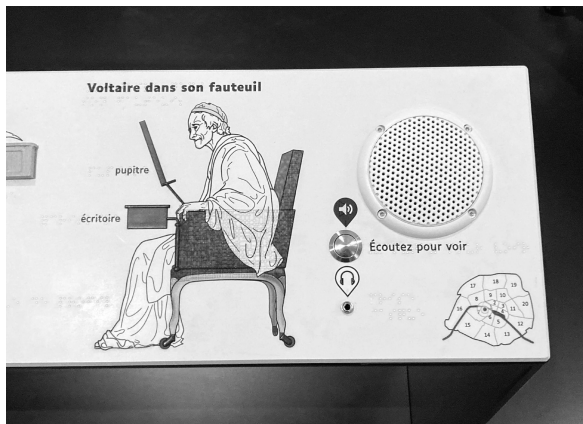


写真1（筆者撮影）



写真2（筆者撮影）

7) “Un nouveau musée” Musée Carnavalet - Histoire de Paris

<https://www.carnavalet.paris.fr/le-musee/un-nouveau-musee>（最終閲覧日：2023年6月25日）

8) “J'apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris”

<https://www.carnavalet.paris.fr/visiter/ressources-en-ligne>（最終閲覧日：2023年6月25日）

公開された。

この教材が対象とするのはフランス語の学習者であるが、補助資料“Support Accompagnant: J'apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris”<sup>9)</sup> (p.1)によると、特にフランス語の読み書き (ALPHA) や外国語としてのフランス語 (FLE) の授業、移民の社会適応のためのワークショップ (ASL) に参加している人々が対象として想定されている。また、同資料 (p.2) によると、この教材はフランス語を母語としない人々、特に社会的に弱い立場にある人、仕事を探している人、移民やフランスに来たばかりの人へのフランス語教育を担っている団体<sup>10)</sup>「L'Île aux Langues」と、パリ市の「Service Egalité Intégration Inclusion」(平等・統合・包摂部門) のフランス語学習担当チームの協力で作成された。Favart (2020)<sup>11)</sup>はこの教材の旧版を用い、移民への文化的仲介 (la médiation culturelle) の観点から談話の構成要素や語彙といった言語的特徴、必要とされる文化的な既有知識についての分析を行っている。

本研究においては、主に日本の高等教育機関におけるフランス語教育活動への応用可能性を考察するという視点から、①どのような素材を用いて学習を促進しているか、②学習者に対する指示文がどのような言語的特徴を持っているか、③学習活動の実施にあたってどのような社会文化的知識が埋め込まれているか、の三点に着目して分析を行うこととする。

### 3. 教材の分析

#### 3.1. 事前学習のための活動

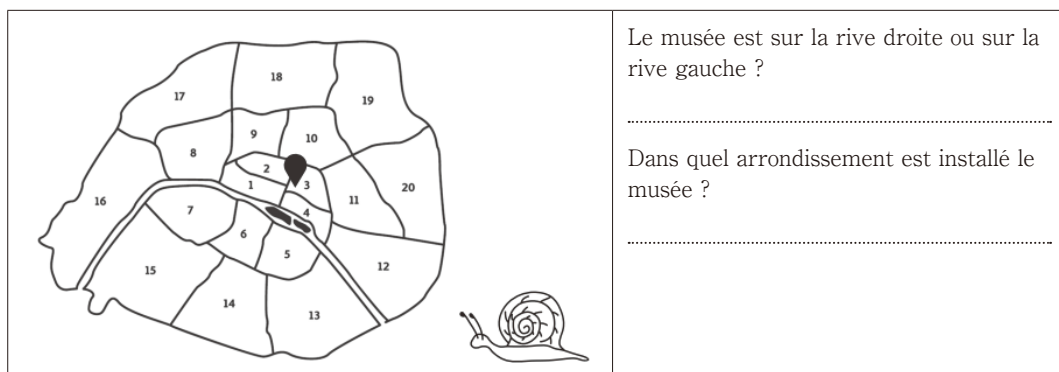
最初に、立地・道順・交通手段といったミュージアムへのアクセス、開館日・開館時間などの利用案内、ミュージアムでのルールなど、ミュージアムを訪問する前に実施することが想定された活動を分析する。

例1では、パリの20区が簡易的な地図で表現されており、すぐ近くにカタツムリのイラストが描かれている。このことは、パリの各区が中心部からカタツムリの殻のように螺旋

9) “Support accompagnant: J'apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris”  
<https://www.carnavalet.paris.fr/visiter/ressources-en-ligne> (最終閲覧日: 2023年6月25日)

10) “Qui sommes-nous?” L'Île aux Langues  
<https://lial.fr/qui-sommes-nous/> (最終閲覧日: 2023年6月25日)

11) Favart, Françoise (2020) “La médiation culturelle au musée: entre apprentissage linguistique et prérequis culturels”, *Regards sur les médiations culturelles et sociales: Acteurs, dispositifs, publics, enjeux linguistiques et identitaires*, Dirigé par Jean-Paul Dufiet et Elisa Ravazzolo, pp.89-112, Università degli studi di Trento, Dipartimento di lettere e filosofia.

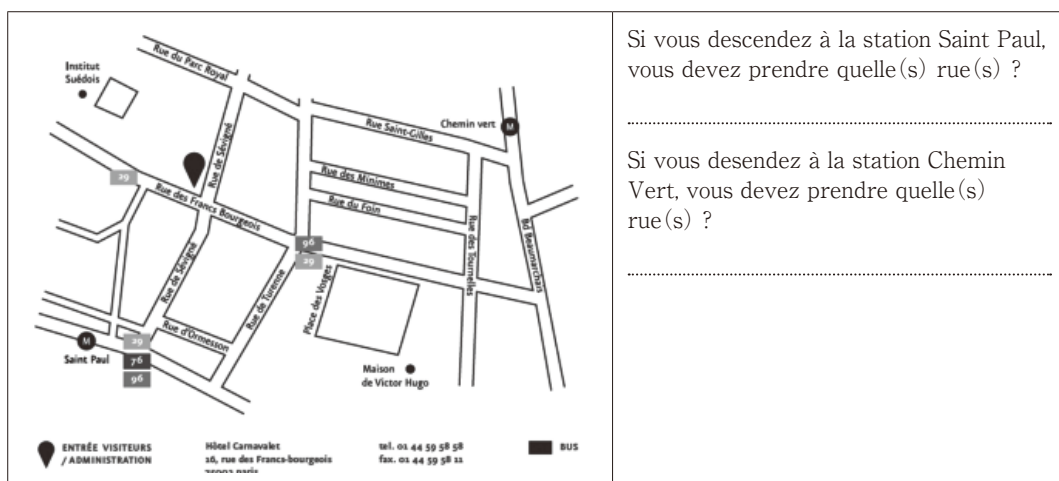


例 1. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.3) より

状に配置されていることにより、パリの街がしばしばカタツムリに例えられる、という文化的知識を含んでいる。

学習者の活動として、「ミュージアムは右岸に位置しているか、左岸に位置しているか」「ミュージアムは何区に位置しているか」という質問に答えることが指示されている。疑問文が「A ou B」（AまたはB）もしくは「quel」（どの～）という形をとっていることから、学習者は指示文の中あるいは視覚的資料（この場合は地図中の区を表す数字）の中に回答のための選択肢を見出すことができ、フランス語で作文をする能力がなくても単語や数字だけで回答を伝えることができる形式となっている。またここにも、セーヌ川から見て北側が右岸、南側が左岸と呼ばれているという文化的知識が埋め込まれている。

例 2 では、複数の最寄り駅を含むミュージアム周辺の地図が掲載されており、実際の通



例 2. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.3) より



りの名称なども記載されている。学習者には、「あなたがもしサン・ポール駅で降りるなら、どの通りへ進まなければならないか」「あなたがもしシュマン・ヴェール駅で降りるなら、どの通りへ進まなければならないか」というふうに、複数の行き方で最寄り駅からミュージアムまでの道順を説明することが指示されている。道案内はコミュニケーションを重視したフランス語教材で一般的に扱われるトピックであるが、架空の地図を用い教室の中に閉じられた活動として行うのではなく、現実に存在するパリのミュージアムの地図を素材とすることで、そこを訪問するというリアルな目的を持った活動として提示されている。

言語的特徴としては、先ほどの例と同様「quelle(s)」（どの～）という指示であることで地図中の通りの名前を使って簡単に答えることができる形式になっている。ただし、ルートによって複数の道を通らなければならないので、必要に応じて回答の中に接続詞を含むことが望ましく、先ほどの例よりも少し難易度は上がっている。また、主語に一般的な人を表す「on」ではなく二人称の「vous」を使用していることで、より学習者自身が実際にミュージアムを訪れることを想定した活動となっている。

また、フランスの通りの名称には聖人、政治家、作家などの人物の名前や歴史上の出来事を冠したものが多く、地図を素材として扱うことでこうした固有名詞に触れ、教員から背景についての話を聞いたり学習者自身が調べたりというふうに、文化的知識を扱う活動

	<p>D'ici, comment aller au musée ?</p> <p>.....</p> <p>De chez vous, comment aller au musée ?</p> <p>.....</p>
---	--

例3. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.4) より

の展開も想定することができる。

例3では、RATP（パリ交通公団）による地下鉄の路線図がカラーで掲載されている。学習者は、「ここからミュージアムへはどう行きますか」「あなたの家からミュージアムへはどう行きますか」と、ミュージアムを訪問する際に実際に経験する可能性のある地下鉄の経路をフランス語で説明することを求められている。いずれの質問文にも「comment」（どのように）という疑問詞が使用されており、乗り換えを含めて経路を順に説明する必要があるため、例1、例2よりも回答の難易度が上がっている。また、「chez vous」（あなたの家）というふうに学習者自身が住んでいるところを起点とした経路についても考えさせることで、ミュージアムへの実際の訪問を想定した質問となっている。





この活動に取り組むためには、パリの地下鉄あるいは類似する地下鉄の仕組みについてある程度イメージできている必要がある。例えば複数路線の地下鉄が通る都市部に居住した経験のない学習者にとっては、路線図そのものになじみがなく、より複雑な活動となる。実際の路線図を使用し現実在即した経路を問う活動とすることで、こうした社会文化的な知識が埋め込まれた活動となっている。

例4は、ホームページ等に掲載されている形式の利用案内を元に、ミュージアムの開館・休館日、開館・閉館時間等についての文字情報を読み取る活動である。「何曜にミュージアムに行くことができるか」「17時30分にミュージアムに入ることができるか」「常設展への入場は無料か」という質問に回答する形となっている。一問目は例1、例2と同様、「quels」（どの～）という疑問形容詞が用いられていることで月曜～日曜の選択肢からの回答が促されている。二問目、三問目はいずれも「Est-ce que」から始まる疑問文（回答が「はい／いいえ」の二択となる疑問文）となっている。

なお、三問目に答えるにあたって、利用案内の文章の中に入場料についての記載はな

HORAIRES	Quels jours peut-on aller au musée ?
Le musée est ouvert du mardi au dimanche de 10h à 18h	.....
Fermeture des caisses de billetterie à 17h15, 17h55 pour le comptoir de vente	Est-ce qu'on peut entrer dans le musée à 17h30 ?
Fermeture des salles à 17h45	.....
Jours fériés: le musée est fermé les 1er janvier, 1er mai et 25 décembre	Est-ce que l'entrée aux collections permanentes est gratuite ?
	.....

例4. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.5) より

	<p>Qu'est-ce qu'on peut faire et ne pas faire dans un musée ?</p> <p>Entourez les bonnes réponses.</p>
	<p>Est-ce que vous pouvez manger ?</p> <p>Oui Non</p>
	<p>Est-ce que vous pouvez vous asseoir ?</p> <p>Oui Non</p>
	<p>Est-ce que vous pouvez prendre des photographies sans le flash ?</p> <p>Oui Non</p>
	<p>Est-ce que vous pouvez toucher les œuvres ?</p> <p>Oui Non</p>

例 5. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.6) より

い。本教材の旧版には入場料についての説明が含まれていたため、単なる間違いなのか、あるいは学習者に実際にホームページを検索して情報を探させたいのか、作成者の意図は不明である。前者であれば、教材制作・公開にあたって学習者への指示が適切であるかどうかのチェックがいかに重要であるか、ということが分かる。後者であれば、学習者による調べ学習を促進するために教材の外側にある情報も活用することが、特にオンラインでの情報検索が主流となった現在では有効な方法であることが示唆される。

例 5 では、ミュージアムの中でできること／できないことについて、ピクトグラムをヒントにしながら「はい／いいえ」の二択で回答する形式の質問となっている。

回答形式として「Oui」（はい）、「Non」（いいえ）のいずれかを丸で囲むということを、「Entourez les bonnes réponses」（正しい回答を丸で囲みましょう）という指示文の「Entourez」（丸で囲みましょう）という単語を手書き風に○印で囲むことで分かりやすく例示している。こうした指示文を分かりやすくするための工夫は他の箇所にも多く見られ、例えば「Écrivez les réponses」（答えを書きましょう）の指示文の前には鉛筆のピクトグラムが、「Répondez aux questions à l'oral ou à l'écrit」（口頭または筆記で質問に答えましょう）の指示文の前には鉛筆のピクトグラムに加え、ふたりの人間が会話していることを吹き出しをつけて表現したピクトグラムが付けられていた。こうした教室や学習と




いう場面で使用される言語は日常の場面で使用される語彙とは異なっていることもあり、学習者の社会文化的背景によっては理解が難しいこともある。ピクトグラムを使用することで指示文そのものの理解を助ける工夫がなされている。

また、質問項目は、「食べることができるか」「座ることができるか」「フラッシュなしで写真を撮ることができるか」「作品に触れることができるか」の4つとなっている。想定するミュージアムによっては異なる回答があり得るが、最初の質問「Qu'est-ce qu'on peut faire et ne pas faire dans un musée ?」（ミュージアムで何ができて何ができないか）の中で「musée」（ミュージアム）に付いている冠詞は不定冠詞の「un」であることから、この質問はカルナヴァレ博物館でのルールではなくフランスのミュージアム全般における一般常識を問うているものとなる。ちなみに、旧版の教材<sup>12)</sup>では、スマートフォン、食べ物、リュックサック、カメラ（フラッシュあり）、犬、手の6つのピクトグラム全てに禁止を意味する赤の斜線が入っており、それらの禁止事項を文章で表す際に抜けている単語を穴埋めするという活動であった。新版では言語の面ではより難易度の低い問題に修正されている一方、フランスのミュージアムでのルールについて学習者自身に考えさせる問いとなっている。

### 3.2. ミュージアムでの学習活動

次に、実際にミュージアムを訪問した際に各展示室を見学しながら実施することを想定した活動を分析する。

このパートでは各展示室にひもづけられた学習活動が提示されているが、途中で例6




	Montez les escaliers.
---	-----------------------

例6. “J’apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.14) より

12) “J’apprends le français au Musée Calnavalet”

<https://www.carnavalet.paris.fr/fr/activites/apprendre-le-francais-au-musee-carnavalet>

（最終閲覧日：2020年8月18日、旧版のため現在は閲覧不可）


			Associez ces enseignes du 19e siècle à leurs boutiques.
●	●	●	
Enseigne d'un opticien	Enseigne d'un coiffeur	Enseigne d'une poissonnerie	

例7. “J’ apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.13) より

のようにある展示室から次の展示室に向かう経路が写真、矢印、簡単な文章の形で挿入されており、この教材が館内案内のためのガイドブックの用途も備えていることが分かる。指示文では、「Montez」（のぼって下さい）「tournez」（曲がって下さい）「traversez」（横断して下さい）「Allez」（行って下さい）等の動詞の命令形や「à gauche」（左へ）「à droite」（右へ）など入門レベルのフランス語学習で扱われる道案内のための語彙が使用されている。また、見学の際に目にするであろう語彙、例えば「une sculpture」（彫刻）、「une maquette」（模型）等については、やさしいフランス語で説明が加えられている。

例7は展示室での学習活動の一例である。ミュージアムの実際の展示物の写真が並んでおり、それに対応するフランス語が選択肢として並んでいる。この例では、19世紀に実際に使用されていた「enseignes」（店先上部に付けられる看板やシンボル）を見て、それが付けられていた店を選ぶという活動である。「Associez」（結びつけて下さい）という単語が使用されているように、対応するものを線で結ぶことが指示されている。こうした、視覚的なイメージとフランス語の語彙を結びつける形式の活動は全体で4箇所に見られた。こうした例では実際の展示物を用いて、フランス語の語彙の学習とその展示物に関する文化的知識の理解が同時に目指されていることが分かる。

例8も同様に展示室の写真が使用されており、着目してほしい展示物（掛け時計、棚、椅子、ハーブ）が円で囲まれている。学習者に対する質問は、「これらのものは何に使うものですか」「あなたは楽器を演奏しますか」「あなたが好きな楽器は何ですか」の3つである。ここでは、質問文の中に二人称の代名詞（vous）および所有形容詞（votre）が使用されていることから分かるように、展示物を出発点として学習者自身のことをフランス語で表現してもらう活動が組み込まれており、展示物についての理解を学習者の身近な話

	<p>A quoi servent ces objets ?</p> <p>.....</p> <p>Et vous, jouez-vous d'un instrument de musique ?</p> <p>.....</p> <p>Quel est votre instrument de musique préféré ?</p> <p>.....</p>
---	---

例 8. “J’ apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.16) より

題と結びつける工夫がなされている。

### 3.3. 事後学習のための活動


最後に、ミュージアムを訪問した後に、ふりかえりとして実施することを想定した活動を分析する。

例 9 では、ミュージアムの見学の最後に「あなたのお気に入りの作品は何ですか」「ミュージアムのどんなところが好きですか」という 2 つの質問に答える活動が示されている。ここでも「votre」(あなたの), 「vous」(あなたは) と二人称が使用されており、学習者自身が自分自身の考えを表現する活動となっている。

例 10 では、ミュージアム訪問中に撮影した中から気に入った写真を 2 枚選び、①なぜその写真が好きかを語る、②各写真にタイトルをつける、③教師に手伝ってもらいオンラインのフォトアルバムを作成する、という一連の活動が提示されている。最後の文章は直訳すると、「ほら、あなたは (vous) あなたの (votre) 訪問の思い出を持ちます」となり、学習者ひとりひとりの自己表現を促す創造的な活動となっている。また添付された素材としては例となるような館内の写真に加え、カメラのイラストや写真を撮る人物のイラストな

<p>Quelle est votre œuvre préférée ?</p> <p>.....</p> <p>Qu'est-ce que vous aimez au musée ?</p> <p>.....</p>
---

例 9. “J’ apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.19) より

	<p>Choisissez vos deux photos préférées prises pendant la visite.</p> <p>Activité 1 : Racontez pourquoi ces photos vous plaisent.</p> <p>Activité 2 : Trouvez un titre pour chaque photo.</p> <p>Activité 3 : Créez votre album photo en ligne avec l'aide de votre professeur !</p> <p>Voilà, vous avez un souvenir de votre visite !</p>
---	--

例10. “J’ apprends le français au musée Carnavalet - Histoire de Paris” (p.20) より

ど、どのような活動が提示されているかのヒントになるような視覚的イメージが掲載されている。

#### 4. まとめと考察

本研究では、フランスのカルナヴァレ博物館で制作・公開されたフランス語教材を対象とし、①どのような素材を用いて学習を促進しているか、②学習者に対する指示文がどのような言語的特徴を持っているか、③学習活動の実施にあたってどのような社会文化的知識が埋め込まれているか、の三点に着目して分析を行った。

①どのような素材を用いて学習を促進しているか、については、文字情報だけでなく、地図、路線図、館内や展示物の写真、ピクトグラム、イラストを用いることにより、どのような活動をするかが視覚的に理解しやすくなる工夫がされていることが分かった。言語教育の補助資料として用いられるこうした実物の素材はレアリア (documents authentiques) と呼ばれる。こうした教育用に作られたものではない生の素材を用いることで、学習者はよりリアルな目的を持ち、教室の外に開かれた活動として学習に取り組むことができる。ミュージアムをテーマとして教材を作成することによって、地理的な情報や展示物に関する情報を多く含むことになるので、このように視覚的なイメージで理解や学習を促す活動が取り入れやすいと考えられる。

②学習者に対する指示文がどのような言語的特徴を持っているか、については、「A ou B」(AまたはB)、「quel」(どの～)、「oui / non」(はい／いいえ)といった形式をとった

り、選択肢を資料中や文中に示したりすることによって、学習者が「選択する」というより取り組みやすい形で質問に答えられる工夫がなされていることが分かった。そして、答えを丸で囲む、線でつなぐなど、フランス語での読み書きのレベルが不十分な初学者でも回答することのできる質問が多かった。また、特に後半の活動では質問文の中に「vous」（あなたは）「votre」（あなたの）といった二人称の表現が多用されており、展示物を出発点として学習者自身の自己表現を促す工夫が見られた。

③学習活動の実施にあたってどのような社会文化的知識が埋め込まれているか、については、パリの地理や交通、ミュージアムの展示物に関わる文化的・歴史的な情報、またフランスのミュージアムでの社会的なルールに関する知識が、フランス語の学習活動に取り組む過程の中に埋め込まれていることが分かった。こうした社会文化的な知識は一般的な語学の授業では主たる学習目的とはならず、例えば雑談のような形で授業活動の枠組みの外に置かれることもある。いっぽう、本研究の対象となったミュージアムでのフランス語教育においては、提案された学習活動の一部として取り扱われていた。

以上の結果から導かれた知見を、日本の高等教育機関におけるフランス語教育活動にどのように応用できるだろうか。教材で提案されている活動の中には、特に事前学習のパートなど、現地を訪れることなく取り組むことのできるものもあった。また現在では、多くのミュージアムにおいて、オンラインで館内や展示作品を見せるという取り組みが見られる。例えばインターネット上のリソースを資料としたミュージアムの訪問準備のための学習、展示物の写真を元にした語彙の学習などは、教室でのフランス語学習の枠組みで実施することができる。

本研究の結果が示す通り、ミュージアムでフランス語を学ぶという活動は、視覚的なイメージによって理解や学習を促す工夫が取り入れやすく、言語学習活動に埋め込まれた形でフランス語が使用されている国や地域に関する社会文化的知識を取り扱うことができる。また、今回対象とした教材の例のように、指示（consignes）の形式に留意することによって、入門レベルの学習に取り入れたり、学習者の好みや日常生活と結びつけた言語活動と組み合わせたりすることができる。

次に示すのは本研究の結果から得られた知見を元に筆者が提案する、フランス語圏の他のミュージアムの情報をリソースとしても共通して実施できる活動および質問項目のリストである。

- 1) ミュージアムへのアクセス
  - 1-1) ○○市のどのあたりにありますか。
  - 1-2) 最寄り駅はどこですか。
  - 1-3) 最寄り駅からミュージアムまでの道順を説明して下さい。
- 2) ミュージアムへの訪問準備
  - 2-1) 休館日はいつですか。
  - 2-2) 開館時間は何時から何時までですか。
  - 2-3) 入場料はいくらですか。学生割引はありますか。
  - 2-4) 館内に昼食をとれる場所がありますか。
  - 2-5) 現在, どのような企画展が行われていますか。
- 3) ミュージアムでのルール
  - 3-1) 写真撮影は可能ですか。
  - 3-2) 筆記用具の使用は可能ですか。
  - 3-3) 他に禁止と書かれていることがあれば説明して下さい。
- 4) ミュージアムの展示物
  - 4-1) 次の作品がどの部屋に展示されているか選びましょう。
  - 4-2) 次の作品の中に描かれているものを選択肢から選びましょう。
  - 4-3) 展示物と学習者の日常を結びつけた質問(展示物の特徴により異なる)
- 5) 訪問後のふりかえり
  - 5-1) あなたが最も気に入った作品を選び, その理由を説明しましょう。
  - 5-2) ミュージアムを訪れた感想を家族・友人へのポストカードに書きましょう。
  - 5-3)気に入った作品(または作者)について調べ, クラスで発表しましょう。

今後の展望として、フランス語圏の他のミュージアムにおける事例も調査しフランス語学習のための教材制作の実践知を蓄積するとともに、館内の展示デザインやワークショップのデザインについても、言語学習活動の観点から分析・考察したいと考えている。